

令和3年度 小林市立須木小学校 自己評価書

4段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
-------	--------	-----------	------------	----------

学校経営ビジョン	「夢や希望をもち、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」～「学びたい」子ども「学ばせたい」学校・家庭・地域の集う学校づくり～【テーマ わたしが主役！すきっ子ハッピー物語】			
----------	---	--	--	--

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	実践事項	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
				取組別	総合	
知育	重点目標: 基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成 手段 1 基本的学習習慣の徹底 2 宅習ノートとタブレットを活用した学びのサイクル作りの推進 3 タブレットを活用し、児童の学習意欲と活用技能の定着を図る 4 絵本100冊運動の実施と、読書を活用した学力向上の取組の推進 5 一人1授業の実施、授業論文の応募等を通じた授業力向上	1について ○ 立腰・鉛筆の正しい持ち方の指導	○ 学習の約束に関する指導の重点化(立腰、鉛筆の持ち方)と継続的指導の実施 ○ 低学年児童への鉛筆の持ち方グリップの活用	2	3	・鉛筆の持ち方グリップを活用させることで、少しずつ正しい持ち方のできる児童が増えてきた。あと1名であるが、全員が正しい持ち方ができるように、継続して支援を行っていききたい。また、状況については、保護者の方に、学級通信等でお知らせすることも大切である。 ・昨年度と比較すると、教師の評価が0.2ポイント、保護者の評価が0.8ポイント低くなっている。指導方法の工夫・改善が必要である。 ・立腰指導については、集会、授業開始時に繰り返し取り組ませることで、良い姿勢が定着しつつある。
		2について ○ 宅習ノートの改善指導 ○ 保護者と協力した家庭での学習習慣の確立 ○ 家庭学習におけるタブレットの活用	○ 家庭学習の4つの決まり、6つの約束、家庭学習の手引きの配付 ○ 基本的学習習慣の確立に関する保護者への啓発(アンケート及び結果の提示) ○ 自宅にタブレットを持ち帰らせ、日記や生活の記録、課題等を行かせた ○ 今後、課題として使用できるソフト等を充実させていく予定である	3		・家庭学習の4つの決まり、6つの約束を宅習ノートに貼らせたり、よい宅習をコピーし児童玄関の壁に掲示したりすることで改善を図ってきた。しかしながら、個別指導を要する児童もおり、昼休みや放課後に個別指導を行ってきた。今後は、家庭とも連携をして内容の改善を図っていききたい。 ・タブレットを活用するに当たり、家庭学習で使用できるソフト等が十分ではなかった。自宅学習で使用できるソフト等を充実させることで、学力の向上を図っていききたい。
		3について ○ 研究授業での活用に関する授業研究 ○ 日々の授業や家庭学習での活用 ○ すきタイムでの活用 ○ 月1回の学びの確認の実施	○ タブレットを活用した研究授業の実施(校内での研究授業及び小中合同研究授業) ○ 日常の授業におけるタブレットの積極的な活用(ほとんどの授業で活用した) ○ すきタイムにおける積極的なタブレットの活用(タイピング練習など) ○ 新聞記事を活用した学びの確認の実施とその振り返り	3		・自宅における動画視聴の時間が多すぎることで、ネットゲームでのトラブルといったメディアの利用上の課題も見えてきた。次年度以降も学校保健委員会等の実施や保健だより等で情報を発信していくことで、家庭と協力して正しい利用ができるように指導していききたい。 ・今年度は、教師の授業におけるタブレット活用に関する研究を行ってきた。更に効果的な活用方法について研修を深めていく必要がある。 ・実際にノートに書くことも大切なことであり、ノートの書き方指導とタブレット活用とのバランスをとっていく必要がある。
		4について ○ 図書を活用した授業の実施 ○ 電子図書館の活用 ○ 読み聞かせの充実(あすなろ会との連携) ※ 図書委員に児童による読み聞かせ	○ 読書旬間の実施(年2回)※6月、11月(多読賞、読書ビンゴ、読書スタンプラリー等) ○ あすなろ会等の読み聞かせの実施 ○ 図書委員会を中心とした読書推進の取組(ZOOMを使用した読み聞かせの実施) ○ 教員による電子図書館を使用した読み聞かせの実施(お話玉手箱)	3		・読書旬間における教師や委員会の児童による読み聞かせ、代表児童による本の紹介、多読賞表彰などの取組により、本を読む児童は増えた。 ・図書室の利用状況や読書量には、個人差がある。全校児童の読書の状況を把握し、表彰などの手立てを講じていききたい。 ・あすなろ会の方の御協力により、読み聞かせは充実していた。(児童も楽しみにしていた。) ・電子図書館を導入したが、本の貸出冊数は減っていない。更に読書量が増えるように時間設定等を行っていききたい。
		5について ○ 一人1授業の実施 ○ 授業論文への応募 ○ 中学校との合同授業研究会の実施	○ 一人1授業を実施し、全職員で参観し、お互いに意見や感想を伝えた ○ 授業論文への応募 ○ 小中学校で、それぞれ研究授業を実施し、授業参観や研究会を実施することで授業力の向上や小中連携の強化を図った	3		・一人1授業は、全員が実施し、それぞれの授業に対しての意見や感想を述べあうことで改善を図った。授業論文には、2名が応募し授業力の向上を図った。来年度以降も継続していくことで、全教員の授業力が向上するようにしていききたい。 ・今後は、タブレット等の活用も含めて、子供達の学力が向上するための活用技術の獲得に向けて、更なる努力を行っていききたい。
徳育	重点目標: ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 手段 1 いじめ認知の向上 2 学校に行くのは楽しいと感じる児童の育成 3 社会の問題や出来事に興味をもつ児童の育成 4 須木を愛し夢をもつ児童の育成	1について ○ 生活アンケート・サポート委員会の実施 ○ 家庭との連携の充実(電話や家庭訪問)	○ 8月以外は毎月、生活アンケートを実施し、その結果をもとに、サポート委員会に対応を協議した。 ○ 朝の立番、地区集会等での具体的指導 ○ 家庭への啓発と連携	3	3	・アンケートを毎月実施し、気になる点がある児童については、聞き取りを行い、早期に対応してきた。認知件数は向上している。 ・家庭に対してもアンケートの実施や個人面談を実施し、困り感の把握とその支援を行った。今後も更なる支援に努めたい。 ・今後は、いじめが起らない環境作りのために、確実な見届けや教師間、家庭との連携の更なる強化に努めたい。 ・アンケートや相談の実施状況、子供達の状況などの学校での取組を全家庭に伝えていく活動も必要である。
		2について ○ 人権学習の推進 ○ 教育相談の充実(年2回 6月・11月) ○ 夢の掲示	○ 生徒指導、いじめ防止に関する職員研修の充実 ○ アンケート調査、教育相談、サポート委員会実施による、未然防止およびいじめの早期発見・早期対応 ○ 「西諸みんなて人権を考える取組」の実践	3		・昨年度に引き続き、年2回の人権学習の実施、教育相談の実施、廊下に児童の将来の夢を書いたものを掲示することを行った。 ・将来の夢を確かなものにしていくために、学習することが大切であるということを実感できるように、キャリア教育を今後も推進していききたい。また、須木の発展のために頑張りたいと思う児童の育成に努めていききたい。 ・5年生の総合的な学習の時間に、須木で働く方々へのインタビューを行い、動画としてまとめる作業を行っている。
		3について ○ 新聞、地域人材の活用	○ 教科や行事における体験活動や地域の人材を活用した学習の実施 ※ 社会科、総合的な学習の時間、生活科、クラブ活動における学習での人材活用 ※ SUP活動は、緊急事態宣言中のため中止 ○ 「宮日こども新聞」の積極的な応募、コーナーの設置	3		・保護者の方から、まだまだ地域の人を交えた行事をしてもよいという意見をいただいた。コロナウイルス感染拡大防止のために、行事等への参加を保護者の方や親族等に限定したことが原因ではないかと考える。コロナウイルスの感染状況を確認しながら、地域の方々を招いて行事を実施していききたい。 ・授業で作成した作品を、宮日新聞に積極的に応募し、宮日こども新聞の記事をお昼の放送で読む活動も行った。継続していききたい。
		4について ○ キャリア教育、ふるさと教育の推進 ○ ボランティア活動の推進	○ 児童による朝のボランティア活動の実施(悪天候の日以外は実施) ○ 地域の行事参加に関する啓発 ○ 総合・生活科を中心に、各学年の内容に応じて、地域人材を活用したり地域素材を活用したりする学習の実施	3		・今年度、総合的な学習の時間の年間計画を改善し、系統的に須木について学ぶことができるようにした。 ・地域の祭り(ほぜ祭り)にも多くの児童が参加するように呼びかけた。実際に多くの児童が祭りに参加した。 ・低学年の生活科の学習において、まちたんけんとして、地域内にある事業所や官公庁を見学し、須木で働く人に関する学習を行った。 ・朝の清掃など、自主的にボランティア活動を行う児童がいる。更に多くの児童に広げられるように呼びかけ等を行っていききたい。 ・須木について学ぶ職員研修を夏に行った。
体育	重点目標: 健康的な生活を過ごそうとする児童の育成 手段: 1 健康な体作り、規則正しい生活習慣作り 2 体育の授業の充実 3 運動に親しむ児童の育成 4 保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進	1について ○ 「学校へ行こう」の呼びかけとともに、全員登校100日以上を目指す	○ 学校便りや学級通信、保健便り、心身の健康管理と欠席をなくすように呼びかけた ○ 保健関係の記録に、全員が登校した日を記述し、日々、意識するようにした ○ 欠席をした児童には、電話連絡や家庭訪問を行い確認等を行った	3	3	・12月16日(木)現在で、全員登校が75日達成できている。(昨年度は、1月25日現在で50日であった。) ・連続して欠席した児童には、電話連絡や家庭訪問を行い、学校の様子を知らせるなどの対応を行った。 ・保健関係で気になることについては、保健だより等を通じて、保護者にお知らせするようにした。
		2について ○ 体力向上プランにもとづく運動量の確保、質の向上 ○ タブレットを活用した体育の授業の実施	○ 体力向上プランの作成と授業等での実践 ○ 体力テストの実施と結果の分析、活用 ○ タブレットによる活動の様子の動画、静止画撮影、授業への活用	3		・体力テストの結果を全国と比較すると、握力や柔軟性に課題が見られた。体育の授業や日々の遊びなどを通じて改善を図っていききたい。 ・11月に、長距離走大会に向けての練習を行い、大会も実施した。多くの児童の記録が向上した。 ・体育の授業は、水泳も含めて感染症対策を行いながら計画的に実施してきた。 ・タブレットの活用が少なかった。体力や技術の向上につながる効果的な活用方法について研究を深めていききたい。
		3について ○ 朝、昼休みの外遊びの推奨 ○ 遊具(一輪車、竹馬、サッカーゴール等)の整備	○ 外遊びを奨励する「キバツ10カード」の配付と取組 ○ 体育の授業を含め、1年間を通じたなわとび運動の実施(なわとびカードの活用) ○ 遊具等の安全点検を実施し、安心して遊べる環境作りを行った	3		・昼休みは、外で遊んでいる児童も多く、一輪車や竹馬などの遊具を使用している児童も多かった。 ・朝は、ボランティア活動を行っている児童はいるが、外遊びを行っている児童はいなかった。適した季節に、外で遊ぶことを勧めていききたい。 ・児童に「キバツ10カード」を配付したが、その活用状況に対する見届けができていない。見届けまで確実に行っていききたい。
		4について ○ フッ化物洗口の実施と検診結果を活用した、虫歯治療率の向上	○ 児童会と連携した基本的学習習慣の確立への取組 ○ 検診結果の配付及び受診が進まない児童、家庭への個別相談の実施 ○ 全児童に対するフッ化物洗口の実施	4		・保体委員会の児童と連携し、正しい方法で歯磨きができるようになるための取組を行ってきた。 ・検診の結果を使用して、参観日の学校保健委員会で受診の呼びかけを行った。また、保健だよりや学級通信を活用して、長期休業などの期間を利用した治療の呼びかけを行った。 ・あと4名が歯の治療が終わっていない。継続して家庭にも協力の呼びかけを行っていく。
食育	重点目標: 望ましい食習慣を身に付けた児童の育成 手段: 1 食に対する指導の充実、食育の推進 2 年間2回の弁当の日の実施と感謝集会の実施	1について ○ 給食指導を通し、食事のマナー、箸の持ち方を身に付けさせる ○ 残食残菜0 ○ 早寝、早起き、朝ごはんの推奨と欠食0	○ 各学級で食育の授業を行うことを通して、食事のマナーの向上を図るとともに、栄養バランスについて指導をした ○ 食べきり週間の設定と結果の掲示 ○ 通信や保健だより、学校保健委員会を通じて、保護者に投げかけた	3	3	・今年度は、昨年度まで行っていた「eデー」を実施していない。また、感染症拡大防止の観点から、ふれあい給食も行っていない。残食0を達成させることや食事のマナー向上のために、再開をしたい。 ・夜遅くまでゲーム・動画視聴をすることで、食生活も乱れてきている事について、保護者の方への啓発活動を行っていききたい。
		2について ○ 弁当の日の「できることからやってみよう」の取組 ○ 給食感謝集会や農業体験学習における感謝の気持ちの育成	○ 3つのコースを設定し、自分に合った内容でお弁当の日に参加する ○ 給食感謝集会を実施し、食への感謝の気持ちの醸成を図った ○ 1・2年生が、芋の苗植えを行った ○ シェフのこぼやし食育教室を6年生対象に実施した	3		・給食感謝集会は、1月に実施できた。食に対する感謝の気持ちを持ち、食を大切にできる子供たちを育てていきたい。 ・全学年で食育の授業を実施することで、自分で食事のバランスを考えられる児童を育成したい。 ・今年度は、第1回弁当の日を8月に実施した。第2回弁当の日は、3月の遠足の日に実施する予定である。 ・弁当の日ではなくても、弁当が必要な時には、手伝っている児童が多くなってきた。

次年度の方向性についての校長所見	へき地・小規模校における教育の課題である、児童一人一人に主体性をもたせ、自己肯定感を高めていくための教育活動が、本校においても実を結びつつあると感じる。学力の向上、タブレットの活用、体力の向上、また、健康な体作りを心がけた生活習慣の定着等、今後解決していかねばならない課題もまだまだ多いが、学校・家庭・地域連携のもと、地域に根ざした教育活動を大切に、今後も継続していくことで、課題解決が図っていけると考える。
------------------	--